都市再生整備計画 事後評価シート 飯山中心市街地地区

平成27年2月

長野県飯山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野児	₹	<mark>市町村名</mark> 飯山市 <u>地</u>			地区名	飯山中	心市街地地区		面積	280ha			
交付期間	平成22年度~	平成26年度	事後評価実施時期		平成26年度	交付対象事業費	6,624.4百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況							事業名							
	当初計画に位置づけ、	基幹事業	地域生活基盤施設(緑地、駅西口駐車場(駐車場)、情報板)、高質空間形成施設(千曲川口交通広場 街区公園1・2)、高次都市施設(駅舎合築都市施設(観光交流センター))、土地区画整理事業(都市再生)(新幹 緑飯山駅周辺地区)											
	実施した事業	提案事業	土地区画整理事業、まちつ		在来線駅移転統合事業、新幹	線飯山駅開業キャンペーン								
		1		事業	[名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	当初計画から	基幹事業			区(駐輪場)、高質空間形成施 欠都市施設(新幹線飯山駅自由	る削除 設(新幹 出通路) とによる削除	周辺地区(駐輪場)]他事業に組み込 周辺地区(歩行支援施設)]他事業に 自由通路]交付対象事業の位置付に へ変更	こ組み込んだこ	なし					
	制除した事業	提案事業	新幹線駅前市有地整備事成事業	業、花スポットオ	ドランティア育成事業、歩くたび	間に合わないた マップ作 【花スポットボラン なったことによる 【歩くたびマップ	ンティア育成事業】維持管理体制の	構築が困難と	市民満足度調査に影響するが、目標値は据え置く。					
	新たに追加した事業	基幹事業	飯山駅前公園)、地域生活	基盤施設(斑尾 高質空間形成)	線、1-522号線)、公園(飯山場 『口広場(広場)、地域防災施設 施設(斑尾口広場(歩行支援施 ンター))	ちづくりを促生。 「市利に 1501年 「市利に 1501年 「利用に 1501年 「	有事の際には、周辺の施設及び住を追加 とを追加 態(人工地盤等)]交付対象事業の (次都市施設から変更 行支援施設)]駅利用者の利便性を 全を図るため、事業を追加 ((地域交流センター)]現存する市 においた。 を違えており、新しい施設を建設す	P既存の居住者 図るため、事業 がりとしていた。 備するため、事 情に駅西広場を 民への給水を 立置付けが変更 を高めるととも 民会館が耐震	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *					
			防犯カメラ整備事業、事業	効果分析		くりの観点から、 事業の追加 【事業効果分析】 事業を追加	【事業効果分析】都市再生整備計画の事業効果を確認するために 事業を追加							
	交付期間 当 初			大川 朔 間の 変更による事業、			なし							
	の変更	変 更	なし		指標、数値目標への影	影音								

16 Im					【			値 数値 目標			目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
2) 都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指標			単位	PC1371	_ 基準年度		_ 目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1		既存商店街店舗数 抑制(中心商店街)		3.45	平成20年 度	1.49	平成26年 度		1.61	Δ	あり なし ●	道路整備、公園整備、サイン整備等により、回遊性の向上はある程度図られたが、郊外型大型店舗の進出や商店街の経営者の高齢化が進み、店舗の減少傾向に歯止めがかからなかった。	平成28年1月		
	指標2	交流人口の増加		人/年	53,740	平成20年 度	57,400	平成26年 度		47,650	×	あり ●	一部損壊の影響により、市民会館は減少傾向にあるものの、ふるさと館は増加傾向、その他施設は増減を繰り返しつつも横ばい傾向となっており、効果がみられる。 平成27年度に新しい市民会館である(仮)飯山ぶらざが開館することで、イベント等を通じて交流人口が増加することが期待できる。	平成28年1月		
	指標3	居住世帯数の維持		世帯	2,058	平成20年 度	2,058	平成26年 度		2,013	×	あり なし ●	土地区画整理事業の推進や公園・道路・下 水道等のハード整備による生活水準の向・ 上を図ったが、市内に勤め先がないことな どが要因で年々人口が減少しており、世帯 数の維持に至らなかった。	平成28年1月		
	指標4	指標4 飯山駅乗降客数		人/日	1,224	平成20年 度	1,120	平成26年 度		1,217	0	ありなし	飯山市全体の人口減少が乗降客数の減少の一因になっていると考えられる。そうした中、フラワーロード事業や公園等を整備したことにより、回遊性の向上が図られ、来訪者の増加につながり、その結果、乗降客数の減少に歯止めがかかった。また、外部要因として新幹線駅開業に向けたイベントや、JR東日本が取り組んでいるキャンペーン等が乗降客数の減少抑制に貢献していると考えられる。	平成28年1月		
	指標5	市民満足度	調査	%	50.2	平成21年 度	58.5	平成26年 度		未実施	_	ありなし	平成26年度末の北陸新幹線飯山駅開業に向けて、各種事業を実施しており、今年度 満足度調査を実施しても、効果発現を反映 しないことから、経費的負担や住民負担の 軽減のため、事後評価時はアンケート調査 は減つが、来年度フォローアップを行い達 成度を確認することとする。	平成28年1月		
	指標				従前値 目標(·	数	值	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
3) その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1 北信州ハーフマラソンの参 加者数		人	1,135	<u>基準年度</u> 平成22年 度			モニタリング	評価値 2,222	達成度※1	達成見込み	(総合所見) 新幹線駅周辺整備をはじめ、在来線駅移 転、道路整備、土地区画整理事業の推進 等により、北信州らしい玄関口の創出が図 られた。その結果、駅周辺を活用したイベ ントが活発化し、にぎわいへと繋がってい る。	予定時期			
4) 定性的な効果 発現状況	事業が目に見え事業が目に見え	て進んでいくこ	とで、市民意識	tが向上し、H	H22年に市民によ	る観光ガイ	ドが実施される。	ようになった。								
ルカルル	・広域観光の取組	として、周辺の	日治体と連携	して、観光情	報の提供や相互 実施内容	1文援を行う	なと、周辺を巻き	込んだ取組が行われている。 実施状況 今後の対応方針等								
5)実施過程の評価	モニタリ	ング	なし		大心 们 台			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
	住民参	会	利者からなる新幹線駅周辺整備権利者 関業に向けたイベントの実施			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			施した	権利者 ともに、 【市民[権利者会をはじめ、任民に対して、事業や整備内容を丁寧に説明するととして、意見を把握しながら、事業を推進する。 【市民団体による新幹線開業に向けたイベントの実施】今後も市民の自					
			11. 24 E FT	יייי דוער ער דו יוער				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				王的なる。	主的なイベントに対し、交付金の交付などの援助を行い、取組を推進す る。			
	+± 0± 4.h.+	+ ~/!!	· 土地区画整	理事業権	利者からなる新	幹線駅周辺	D整備権利者	都市再生整備計画に記載し、実施できた				A 46 1	A(4 - 14 T) + A T = 2 + 1 + A T = 2 + 1 + 1 + 1 + 2 + 1 +			
	ががはいるのうとく			を活かした	商店街活性化に向けての方策の検討・			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				● 今後も 進する	今後も権利者会、及び商店街と市の協働による魅力あるまちづくりを推 進する。			
									都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要



まちの課題の変化

- み良いまちづくりを推進する必要がある。
- ・新幹線の駅舎・高架橋などの景観への配慮や駅開業に伴う駐車場・交流の場の整備等が課題となっていたが、新幹線開業を見据え、学識経験者等を交えて景観についての検討が行われたり、観光交流センターが整備されるなど、 交流の場の整備が進んでいる。

・駅周辺整備や交流施設の整備など、交流人口の増加につながる整備をおこなったため、今後はそれらを活用(ソフト事業)し、地域交流・市民活動を活発化させることで交流人口の創出を図る。

今後のまちづくり の方策 (改善策を含む)

- 賑わいを創出するための拠点となる施設整備
- 観光客の同游性を高めるためのサイン整備
- 住民の憩いの場の整備
 - 安全・安心な都市基盤整備の推進